

幕末明治の写真師列伝 第十六回 下岡蓮杖 その十五

その頃の横浜では、まだ写真術は魔術として人に恐れられ、写真に撮られると寿命も短くなるとされて日本人には嫌われていたのだが、ある日、信州の人が久之助(蓮杖)の名を聞いて、老父を荷車に乗せて撮影して欲しいと訪ねてきた。久之助(蓮杖)は大変喜んで、この親子をもてなし、撮影してあげたことがある。この信州の人については、これだけしか記述がないので、誰だかは判らない。

また、久之助(蓮杖)が文久2年(1862)に横浜の弁天通りで開業した際には、太田陣屋(現在の横浜市日ノ出町1丁目の辺り)を統括する鈴木某という人が訪ねて来て、写真も撮り、その後もたびたび鈴木は久之助(蓮杖)の店に来るようになって、親しくもなった。この鈴木という人は信州松代藩の人で、久之助(蓮杖)に自分の藩に佐久間修理(佐久間象山)先生という人がおり、この佐久間先生は大変な俊傑で、西洋の学問も勉強し、写真の原理についても研究されて、自分でも写真撮影を試みていたのだが、忙しくなってその時間も無くなると止めてしまったと久之助(蓮杖)に語った。「蓮杖先生の写真術が我国にあることを聞いたならば、佐久間先生も大変お喜びになるでしょう」と鈴木が久之助(蓮杖)に言うと、久之助(蓮杖)は以前に西洋人を撮影した際の写真を一枚、鈴木に渡して、「この写真を佐久間先生へ贈りましょう」と答えた。その後、この写真は鈴木から佐久間象山に贈られて、大変喜ばれたという。また、佐久間象山もいつの日か久之助(蓮杖)にお会いしたいと伝えてくれと鈴木に伝言したのだが、その後、佐久間象山は京都で尊攘派の浪士に襲われて暗殺されてしまったため、久之助(蓮杖)が佐久間象山に会うことはなかった。

この鈴木某という信州松代藩の人が、何者であろうかと調べてみると、まず信州松代藩がそれまでの福井藩に代わって太田陣屋を統括す



佐久間象山像

るようになったのが文久元年(1861)3月のことで、この太田陣屋はさらに後の慶応2年(1866)9月に信州松代藩から幕府直轄になって仏式陸軍の三兵伝習所になっていることから、鈴木が久之助(蓮杖)と親しくしていた時期は、この間の出来事であることが判る。ちなみにこの三兵伝習所は、その後の明治4年(1871)に廃止となって県兵隊本営となっている。

次に鈴木は佐久間象山の門人であることから、象山の門人録である『訂正 及門録』(『象山全集』などに記載)で調べてみると、佐久間象山の門人で信州松代藩の鈴木という人物は幸いなことに一人しかいない。この人は安政元年(1854)1月14日に象山に入門した鈴木熊次郎という人物であった。この鈴木熊次郎が久之助(蓮杖)と親しくなっていたのであろう。鈴木熊次郎の写真はまだ見つかっていないが、どなたか情報をお持ちの方が居られれば、ご教授頂きたい。

【参考文献】青木歳幸「佐久間象山門人帳『及門録』再考」(信濃史学会編『信濃 第48巻 第7号』(信濃史学会、1996年)掲載の論文)
(森重和雄)